

激甚災害に備えて

災害後に自宅に住めなくなったときや、安全の確保が必要なおとき身を寄せる避難所として、能代西高校も能代市から指定されています。10月22日には、教職員と全校生徒あわせて約350名の参加のもと、避難所の設置訓練が行われました。

M7.5以上の地震が発生した想定で行われ、避難所設営やケガ

人の対応、非常食の炊き出しなど各系列の生徒がそれぞれの役割をもち訓練に臨みました。

1年生が幼児から高齢者までの疑似被災者となり、受付で氏名や住所の記入をした後にそれぞれの避難場所へ誘導されました。ケガの応急室では、腕を骨折した被災者には雑誌を使って腕を固定する処置をしました。また、非常食の炊き出しでは、温めるだけでできるご飯やビーフシチューなどを作り避難者へ提供しました。その他にも、竹の棒と毛布だけでできる担架の作り方や、仮設トイレの設置などについて学びました。

今回の訓練で災害が起きた際、実際に生徒達が資器材の組み立てや避難者への対応等を行う可能性があることを理解してもらう事ができました。



↑担架で被災者を運ぶ訓練



↑非常食の試食も行いました



←避難者へ対応する生徒達



←雑誌を使って腕の固定

わくわく農場体験

→生徒が中心となり収穫作業を行いました



能代西高校の生徒達でつくる『NPO法人アグリファームのしろ』が10月30日に同校で「わくわく農場体験」を開催しました。地域住民との交流や地域貢献活動などを柔軟に展開することを目的に設立され、今回の農場体験は3回目の開催となります。

この日は、能代西高農場でねぎの収穫体験や生徒達が手がけている作物の栽培方法の説明、学校行事などの説明をしました。

その後、“西高産”のあきたこまちやねぎ、比内地鶏などを使用しただまこ鍋づくりも行われ、参加した地域住民約25名が同校独自のイベントを楽しみました。

PTA交流会を開催

能代西高校主催の能代地区高等学校PTA交流会が11月28日に同校で開催され、能代市内の5高校と秋田明德館のPTA会員や職員約40名がそば打ちの体験をしました。

使用されたそば粉は、7月に種をまき、10月に収穫したもので、石川そばの福士正信さんを講師に招き、生徒がアシスタント役としてそば打ち体験が始まりました。

参加者は、慣れない手つきながらも丁寧にこねる作業や伸ばす作業を行い、とてもおいしそうなおそばが出来上がりました。完成したそばは西高産のねぎを薬味に味わったほか、生物資源系列の生徒が作った、そば粉のアイスなども振る舞われました。



←楽しく交流を深めた「そば打ち」体験

